

大船渡市議会議長 様

会派 新政同友会

会 派 視 察 報 告 書

視察先・視察項目

1. アオーレ長岡・災害対策会議室

◆視察テーマ「新世代の交流施設の運営について」

日時：令和8年5月11日（月） 14時30分～16時

2. ①藤次郎オープンファクトリー

◆視察テーマ「伝統技術の伝承と市場展開のあり方について」

日時：令和8年5月12日（火） 11時10分～11時50分

②燕三条地場産業振興センター

◆視察テーマ「モノづくりを支えるビジネスマッチングについて」

日時：令和8年5月12日（火） 13時10分～14時20分

③見附市役所

◆視察テーマ「住みよいまちを目指す各種施策について」

「お試し移住事業の取り組みについて」

日時：令和8年5月12日（火） 15時～16時30分

3. 摂田屋まちづくり・発酵めぐり

日時：令和8年5月13日（水） 11時～13時15分

◆視察テーマ「歴史探訪と醸造のまちの保存活用について」

4. 視察参加者

熊谷 昭浩

西風 雅史

今野 善信

三浦 隆

菅原 実

小松 則也

5. 視察報告

<1日目>

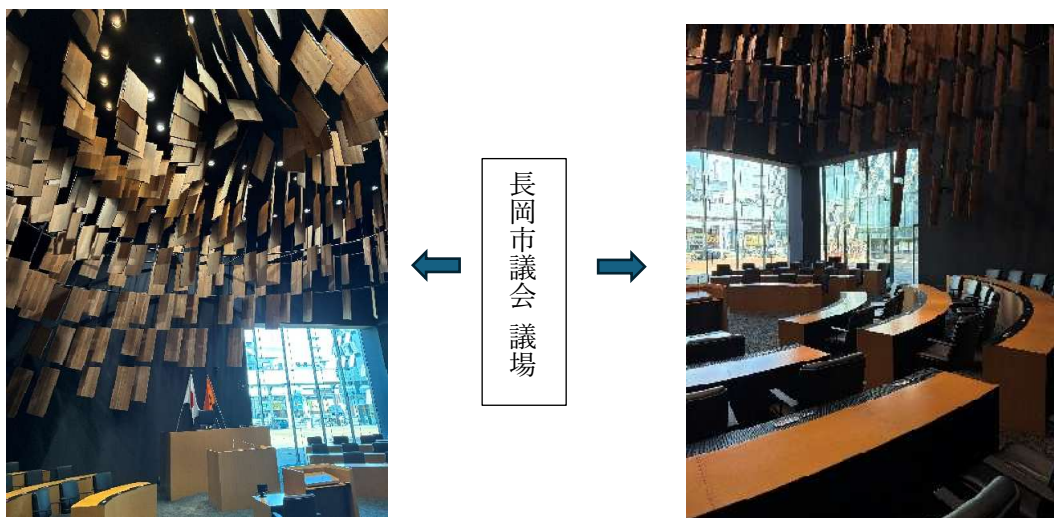
【アオーレ長岡】

基本コンセプト：人が集う、出会いが生まれる、新世代の交流の拠点

5,000人を収容できるアリーナ、開放感のあるナカドマ（屋根付き広場）、そして市役所が一体となった全国初の複合型施設シティホールプラザ「アオーレ長岡」木漏れ日あふれる巨

大空間は、まちを行き交う人々の注目を集める。市民協働の交流拠点通して、様々な活動の舞台となっている。

市民と議会の一体感を醸成するため、一階に議場を配置しガラス張りに。大勢の市民が集まるナカドマに面している。国立競技場の設計者：隈研吾氏の設計によるもの



【災害対策本部会議室】

平成 24 年にアオーレ長岡に移転。中越地震の経験を活かし、アオーレ長岡は一般的な建物に求められる耐震性の 1.25 倍の強度をもち、72 時間・3 日間運転可能な非常用発電設備を完備。マルチディスプレイによりリアルタイムに状況を確認することができる。ドローンの映像等で被害状況を共有することが可能。リモート参加も可能な対策会議を開催し、迅速に意思決定を行う。また、FM 放送により、即時の情報伝達が可能。

【対応してくださった皆様】

- ・ NPO 法人ながおか未来創造ネットワーク
運営リーダー 稲川美沙子 様
- ・ 長岡市市民協働推進部市民協働課課長 梅沢一茂 様
- ・ ほかの皆様

<2 日目>

【藤治郎オープンファクトリー】

伝統と革新を融合させた藤治郎の包丁づくりを自由に見学した。「抜き刃物」「打ち刃物」「鍛造」「研ぎ」「作切り」等の職人の作業風景を目の前で見学することができた。鉄を研磨する音や機械の音が響き、伝統の技が引き立っていた。職人は、若い人が多く後継者が育っていると感じた。



包丁作りの工程

【燕三条地場産業振興センター】

金物を中心とした大型ショッピングセンターである。農機具から調理器具・生活用品まで揃っている。しかも、品揃えが多く品質も良い。他では手に入らないような品も多く良い購入の機会となった。

【見附市役所】

新潟県のほぼ中央に位置する。人口は約 36,000 人。面積は、大船渡市の 1／4 ほどの市である。「住んでいるだけで、健やかに、幸せになれる街」がコンセプトである。見附市民の満足度は 91 パーセント。それもそのはず、

- ① 商業施設や学校、病院などの利便性が良い。
- ② 自然が身近にある。
- ③ 交通のアクセスが良い。
- ④ 補助金が充実していて、住宅が取得しやすい。

これだけ条件が揃っていることが奇跡的だ。

「お試し移住住宅」も見学したが、周辺の環境も良く、モデルハウスのような住宅である。昨年度は 14 組の申し込みがあったそうだ。しかし、移住の決定には至っておらず、最後の決め手をどう作るのが課題となっている。

【質問事項】

(1) お試し移住拠点の取組について、その経緯を伺います。

◆見附市は、市民の満足度が 91 パーセントと高く、①利便性が良い（買い物、病院、公共施設）②豊かな自然が身近にある（車で 5～10 分のところ）③アクセスが良い（通勤、通学、レジャー）④住宅が取得しやすい（住宅補助金、土地の安さ）等の諸条件が揃っている。

しかし、文字や写真だけでは、その良さを伝えるのが難しいため、「お試し移住」という判断に至った。実際に住んでもらうことで、見附市のセールスポイントを伝える。

(2) 移住のためのプロモーションなどの進め方は、どのように行ってきたか伺います。

◆広報手段としては、以下のようなことを行ってきた。

<U ターン向け>

- ・市ホームページ
- ・30 歳の大同窓会
- ・東京みつけデー
- ・にいがた暮らし・しごとと支援センター
- ・メルマガ配信
- ・東京 3 か所の移住相談センター

<I ターン向け>

- ・移住マッチングサイト「スマウト」
- ・ワープシティー
- ・FURUSATO
- ・無料移住サイトへの掲載

(3) 困難だったことや今後の課題について伺います。

◆移住物件を獲得することが難しかったが、見附市のためにということで地元業者に御協力をいただいた。課題の一つは、雪が積もる寒い冬の時期をどう経験させるかである。さらに今年度からは、移住のための決め手になるように、移住希望者の生活全般にワンストップで対応する窓口を開設し、踏み込んだ提案を行っていくことにしている。



お試し移住住宅の玄関ホール

【対応してくださった皆様】

- ・見附市議会議長 渡辺 美絵 様
- ・見附市地域経済課 魅力創造係係長 難波 剛志 様
- ・見附市地域経済課魅力創造係主事 板垣 匡知 様

<3日目>

【摂田屋まちづくり・発酵めぐり】

摂田屋は「酒・味噌・醤油」など、醸造する蔵元が多く残っており、麴の香り漂う醸造の町である。地元で「旧三国街道」と呼ばれ親しまれている旧街道のほか、戊辰戦争の際に長岡藩の本陣だった「光福寺」、鰻絵の蔵「旧機那サフラン酒本舗」など登録文化財や歴史的建造物が多く残る歴史の町でもある。

長岡の市街地は、太平洋戦争でそのほとんどを消失したが、摂田屋は、幸い難を逃れ醸造関係を中心に明治・大正の建物が残っている。



旧機那サフラン酒本舗前

6. 視察を終えて

地域の発展は、歴史的・地理的・産業的・文化的な背景と先人の努力により支えられ、現在に至っていると納得できた。技は引き継がなければならないし、進化させなければならない。破壊されたものは、さらに良い物へとステップアップしなければならない。

今回視察で訪れた長岡市、燕三条市、見附市は、皆そうであった。もともと恵まれた条件が揃っていたと思われるが、大船渡市としても学ぶ点が多くあった。少しでも前に進める努力をしていかなければと新たに誓った。

3日間は、天候に恵まれ快適に過ごすことができた。関係の皆様に感謝申し上げたい。

<宿泊先> 5月11日(月)「ホテルルートイン長岡駅前」

5月12日(火)「イングリッシュガーデン・レアント」